



# 日本造血細胞移植学会 30年の歩み

パネル展示  
「日本造血細胞移植学会  
—30年の歩み」を企画して

第34回日本造血細胞移植学会会長

藺田 精昭

第34回日本造血細胞移植学会学術集会を2012年2月24日(金)～25日(土)の2日間に大阪国際会議場において開催させて頂くにあたり、本学会の30年余りの歴史を振り返るパネル展示「日本造血細胞移植学会—30年の歩み」を企画させて頂きました。

本学会は、1978年に第1回骨髓移植臨床懇話会として発足しています。当時は、名古屋赤十字病院 芳賀圭吾先生、金沢大学第3内科 服部絢一先生、大阪府立成人病センター 千田信行先生、名古屋大学第1内科 山田一正先生が世話人をなさっていました。その後、第3回研究会から日本骨髓移植研究会と名称変更され、第6回の研究会から会長制に移行しています。第7回日本骨髓移植研究会は、柴田昭会長の下で新潟市において開催されています。第13回日本骨髓移植研究会は、現学会会長である小寺良尚先生が名古屋市において主催され、初めて看護師・コメディカルのセッションが設けられました。現在の学会の発展に繋がるご英断であったと考えます。第19回日本造血細胞移植学会学術集会(原田実根会長)は、それまで続いていた日本骨髓移植研究会が学会へと"grade up"した最初の記念すべき学会であったと思います。学会に移行後は、演題数も300題を超えて、最近では演題数が400～500題、参加者数も2,000人を超える大きな学会に発展して参りました。

私は、丁度、30年余りとなるこの時期に総会会長を拝命致しました。最近、若い会員の方々が増加しておりますので、このタイミングで過去の本学会の黎明期から、正に発展しつつある本学会の歴史を資料とともに振り返ることを企画しました。学会会長の小寺良尚先生のご挨拶にありますように、造血細胞移植は今なお成熟途上の分野であり、これからは幾度か困難に直面すると考えられます。そのような時に、今日の造血細胞移植の礎を築かれた多くの偉大な先達に導かれて、その困難を乗り越えて造血細胞移植学会が更なる飛躍を遂げることを心より願っています。

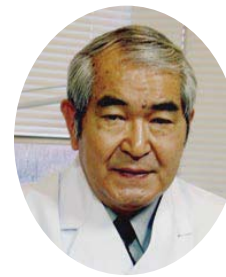


## 本学会の30年の歩み

学会理事長 今村 雅寛

日本造血細胞移植学会は正式には1996年から発足しましたが、その前身は1978年の第1回骨髓移植臨床懇話会であり、名古屋赤十字病院 芳賀圭吾先生、金沢大学第3内科 服部絢一先生、大阪府立成人病センター 千田信行先生、名古屋大学第1内科 山田一正先生が世話人でした。その後、1979年の可能性もありますが、確実には1980年に日本骨髓移植研究会と名称変更され、1995年の第18回まで続きました。

初期のころは演題数も少なく、1日で終わることができていましたが、移植成績の向上とともに、演題数と参加者数も増え、1987年第10回目以降からは2日間の会期となることが多くなりました。各種委員会も増え、各々の活動も盛んになっています。2000年からは理事会制



## 「学会の歴史」の企画に当たって

学会会長 小寺 良尚

第34回学術集会の藺田精昭会長が、「学会の歴史」を企画されたことは、時宜を得たものであり、敬意を表するものである。歴史を紐解くことは現在及び未来の人々にとって大切なことの一つと信ずるからである。

本学会が1978年に骨髓移植臨床懇話会として発足し、その後研究会と名称を変えて夏冬1年半ごとに開催されていた頃の発起人、演者並びにその施設は抄録集にあるが、大学やがんセンター、一般市中病院が北海道から九州まで、それぞれの移植グループとして記載されていて、ここに本学会の今に続く第一の特徴が既に形成されている。骨髓移植はチーム医療であるとともに、地域グループ医療であり、その地域は最初から全国に広がっていて、各地域で症例検討会を開き、経験を交流し、自己研鑽しながら発展してきたのである。

その後懇話会は研究会と名称を変え、第13回研究会では、看護師を始めとするコメディカルのセッションが初めて設けられ、これも現在に至っている。医療における医師以外の職種が主要構成員として参画したことは、とかく陥りがちな医師の独善を戒め、移植チームの構成員は基本的に対等で役割分担が異なるだけ、という事実を学会員全てに

度が敷かれ、2006年2月に有限責任中間法人、2009年2月には一般社団法人となりました。最近では参加者2,000人を遥かに超え、演題数も500～600題と増加の一途で、2日間の会期では窮屈な状況になるほど発展を遂げてきています。現在の本学会会員数が約2,500人であることを鑑みますと、実に90%近い会員が総会に出席していることになり、他の学会では見られない特徴を有しています。

造血細胞移植はコメディカルスタッフも含めたチーム医療であるため、発当初から医師はもとより看護師、栄養士、検査技師、患者支援者など多岐にわたる会員が参加するユニークかつ自由な雰囲気のある学会として機能しており、私も第4回から全て参加してきましたが、その発展ぶりには驚かされます。その時々トピックスをみますと、造血細胞移植の変遷が一目瞭然となり、感慨深いものがあります。まだまだ変革と向上の余地がありますが、着実に進歩してきているのは事実です。本学会を通してさらに造血細胞移植医療の発展がなされ、それを必要とする患者の治癒率の向上に役だつことが出来れば、長年にわたり本学会会員として活動してきたもの一人としてこの上ない喜びといえます。

認識させることに役立っていると思う。第14回の研究会が開かれた時を利用して日本骨髓バンクが発足したことも、その後の学会と骨髓バンク、更には学会とさい帯血バンクとの関係を象徴している。今では在るのが当たり前と考えられているこれら造血幹細胞バンクは、患者・患者家族、ボランティアに動かされた国が、医療チームと協力することによって造られ、今もそれらの人々の協力の下に運営されているのである。

第19回の折研究会は学会となり、今の名称に改められ、会員数、学術集会参加者数とも増加の一途をたどってきた。最近までこうした学会の運営は、年次学術集会の会長が一年の任期で担当してこられたが、事業の拡大に伴い任期を2年以上有する理事長制を採用し、それを機に有限責任中間法人格を、更に一般社団法人格を取得した。これは学会が学会員の自由な診療・研究を保証しつつ社会的責務も果たすべくなされた措置である。今学会は全会員を代表する社員(評議員)を基盤に理事、理事長が執行機関としての機能を果たすことで成り立つ現代的組織であり、アジアの中核、世界の仲間の主要な一員として活動を続けている。

現在の学会を、未だ骨髓移植の冬の時代に懇話会として立ち上げられた方々は、時にはGVHDの酷さに、「あんなことまでしなくても」と誇られながら、時にはあまりに頻繁な陳情に時の当局から「変人」扱いされながらも移植を実践し、健康保険の適用を獲得してこられたのである。造血細胞移植は今なお成熟途上の分野であり、これからは幾度か困難に直面するであろうが、そのような時これら偉大な先達はいつも私達の傍らに立たれるであろう。

## 黎明期 …… 「日本骨髓移植臨床懇話会」

第1回～18回



第9回  
1980年  
大阪  
会長  
演題数

### 第1回 日本骨髓移植臨床懇話会

1978年(S53) 12月  
名古屋

世話人: 芳賀 圭五/服部 絢一/  
千田 信行/山田 一正

演題数: 23

### 第2回 (記録なし)

### 第3回 日本骨髓移植研究会

1980年(S55) 1月  
金沢

世話人: 服部 絢一/千田 信行/  
山田 一正/芳賀 圭五

演題数: 14

### 第4回

1981年(S56) 8月  
名古屋

世話人: 山田 一正/千田 信行/  
芳賀 圭五/服部 絢一

演題数: 27

### 第5回

1982年(S57) 12月  
東京

世話人: 天木 一太/  
芳賀 圭五/千田 信行/  
服部 絢一/山田 一正

演題数: 29

### 第6回

1983年(S58) 11月  
大阪

会長: 永井 清保  
演題数: 39

### 造血細胞移植に関する主要事項

骨髓移植	1980年代後半 自己末梢血幹細胞移植の 臨床応用開始	1988年 フランスで Fanconi貧血の 5歳男児に世界 初の臍帯血移植 実施
末梢血幹細胞移植		
臍帯血移植	1982年 中畑龍俊(第23 回日本造血細胞 移植学会会長が 臍帯血中に造血 幹細胞を発見)	1991年 骨髓移植推進 財団設立許可、 日本骨髓 バンク発足



黎明期 …… 「日本骨髓移植臨床懇話会」として発足し、「日本骨髓移植研究会」に

第1回~18回

発展期 …… 「日本造血細胞移植学会」に改称

第19回~34回

第1回 日本骨髓移植臨床懇話会

1978年(S53) 12月  
名古屋  
世話人:芳賀 圭五/服部 絢一/  
千田 信行/山田 一正  
演題数:23

第2回  
(記録なし)

第3回 日本骨髓移植研究会

1980年(S55) 1月  
金沢  
世話人:服部 絢一/千田 信行/  
山田 一正/芳賀 圭五  
演題数:14

第4回

1981年(S56) 8月  
名古屋  
世話人:山田 一正/千田 信行/  
芳賀 圭五/服部 絢一  
演題数:27

第5回

1982年(S57) 12月  
東京  
世話人:天木 一太/  
芳賀 圭五/千田 信行/  
服部 絢一/山田 一正  
演題数:29

第6回

1983年(S58) 11月  
大阪  
会長:永井 清保  
演題数:39

第9回



1986年(S61) 12月  
大阪  
会長:正岡 徹  
演題数:49

第8回

1985年(S60) 8月  
名古屋  
会長:吉川 敏  
演題数:49

第7回

1984年(S59) 11月  
新潟  
会長:柴田 昭  
演題数:39



●海外の研究者(JM Goldman先生)を初めて講演に招待。●特別講演では、服部絢一先生(金沢大学名誉教授)が特別講演。●正岡徹先生(現・骨髓移植推進財団理事長)の司会によるシンポジウム「同種骨髓移植の長期生存阻害要因への対策」が開催された。



中央に招待講演者のJM Goldman先生。若々しい柴田会長、正岡徹先生、森山美昭先生のお顔が見えます。皆さん、髪の毛が真黒です

第10回

1987年(S62) 2月  
東京  
会長:辻 公美  
演題数:63

第11回

1988年(S63) 12月  
金沢  
会長:松田 保  
演題数:58

第12回

1989年(H1) 12月  
東京  
会長:高久 史麿  
演題数:86



第13回

1991年(H3) 1月  
名古屋  
会長:小寺 良尚  
演題数:116

●抄録集に日本語と英語を併記したのは新しい試みで、海外の主な移植センターに送付。  
●看護師・コメディカルのセッションを初めて設けた。  
●日本骨髓移植研究会の規約と役員が決まり、恒常的な事務局が設けられた。  
●当時の理事には、正岡徹、宮崎保、柴田昭、高久史麿、辻公美、仁保喜之、斎藤英彦、浅野茂隆、小寺良尚の9名の方が就任。  
●第2回APBMT学術総会(会長:正岡徹)とジョイントして開催。  
●1990年に骨髓移植を開発した功績でノーベル生理学・医学賞を受賞されたエドワード・ドナルド・トーマス博士に、日本骨髓移植研究会を代表して御祝いの手紙を送付し、返事(1991年3月13日付)をいただく。

1992年  
ドナー登録受付  
開始、コーディネート開始

1993年  
公的骨髓バンク  
を介する骨髓移植  
第1例実施

第18回

1995年(H7) 12月  
東京  
会長:浅野 茂隆  
演題数:243

第17回



1994年(H6) 12月  
大阪  
会長:柴田 弘俊  
演題数:182

第16回

1993年(H5) 12月  
横浜  
会長:長尾 大  
演題数:178

第15回

1992年(H4) 12月  
福岡  
会長:仁保 喜之  
演題数:156

第14回

1991年(H3) 12月  
札幌  
会長:宮崎 保  
演題数:120



NMDPから提供を受けた骨髓移植患者さんとともに。前列の右端が小寺会長



南京から2医師、技術研修(1992. 11. 27)



公的バンク初の骨髓移植(1993. 1. 29)



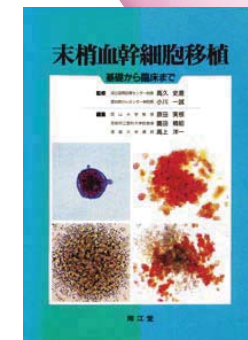
第19回

1996年(H8) 12月19・20日  
ホテルグランヴィア岡山  
原田 実根 (岡山大学医学部第二内科)

- 特別講演 「免疫制御の分子戦略」 奥村 康
- 会長報告 「造血幹細胞移植1996年全国調査」 原田 実根
- 服部記念シンポジウム 服部 絢一/Robert Peter Gale/Alois Gratwohl
- シンポジウム
  - I 「MRD, GVLそしてDLT」
  - II 「多様化する造血幹細胞移植における看護の役割」
  - III 「わが国における非血縁者間骨髓移植の現状評価と今後の方策」

演題数  
330

日本骨髓移植研究会が、日本造血細胞移植学会へと“grade up”した最初の記念すべき学術集会。演題数が初めて300題を超え、参加者数も1,500人を超えた。

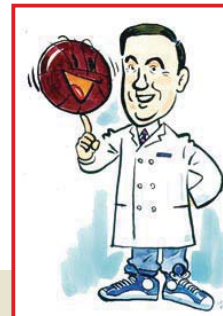


第19回総会会長の原田実根先生、高上洋一先生、第34回総会会長の園田精昭の3名が編集に携わり、日本で初めての「末梢血幹細胞移植」に関する専門書として刊行された書籍

第20回

1997年(H9) 12月18・19日  
東京国際フォーラム  
池田 康夫 (慶應義塾大学医学部)  
テーマ:21世紀の細胞治療への力の結集  
— 新しい医療体制を目指して

- 特別講演 「造血システムの発生と分化」 仲野 徹
- 会長報告 「造血幹細胞移植1997年全国調査」
- 招待講演
  - I Paul J. Martin
  - II Lothar Kanz
  - III Frank J. Hsu
  - IV Juanita Madison
- シンポジウム
  - I 「我が国の医療体制と造血幹細胞移植医療」
  - II 「移植不成功例・移植後再発例のケア」
  - III 「細胞治療の最前線」



池田先生が学生時代にバスケット部だったことから、このようなイラストになった

1994年  
ドナー登録者数  
5万人  
突破

1994年  
自己末梢血幹  
細胞移植の  
保険診療承認

1994年  
東海大学で日本  
最初の血縁者間  
臍帯血移植実施

1995年  
『末梢血幹細胞  
移植—基礎から  
臨床まで』を  
出版(南江堂)

1995年  
日本で最初の  
「神奈川臍帯血  
バンク」設立

造血細胞移植に関する主要事項

骨髓移植	1980年代後半 自己末梢血幹細胞移植の 臨床応用開始	1988年 フランスで Fanconi貧血の 5歳男児に世界 初の臍帯血移植 実施
末梢血幹細胞移植		
臍帯血移植	1982年 中畑龍俊(第23 回日本造血細胞 移植学会会長が 臍帯血中に造血 幹細胞を発見)	1991年 骨髓移植推進 財団設立許可、 日本骨髓 バンク発足

March 13, 1991

Yoshihisa Kodera, M.D.,  
Chairman, The 13th Annual Meeting of the  
Japanese Society for Bone Marrow Transplantation  
3-39, Michishita-cho, Makamura-ku  
Nagoya, 453  
JAPAN

Dear Dr. Kodera:

Thank you very much for your kind note about the Nobel prize and Gairdner award. Please forgive me for the delay in answering, but things have been very hectic here since October.

Naturally I am very grateful for the award. However, it not only honors me but also it is for all of the team who have worked for so many years to improve the results of transplantation. None of the progress could have been made without the dedication and hard work of so many people, including the nurses, technicians and staff as well as the doctors. Especially, we admire the courage of our patients and their families, especially those donors who literally give the gift of life. In keeping with this idea of the team effort, bottle and I have donated the prize money to the Hutchinson Center to continue and to expand the program.

It is very encouraging to me to know that the marrow program in Japan is progressing so well. I am aware of the increasing interest in developing the marrow donor registry as well. I wish you continued success with your program.

Sincerely yours,  
E. Donnall Thomas, M.D.  
Professor of Medicine, UW  
Member TRCNC

ノーベル生理学・医学賞を受賞されたエドワード・ドナルド・トーマス博士から届いた手紙



「日本造血細胞移植学会」に改称。演題数と参加者数は右肩上がりに

第19回

12月19・20日

岡山

岡山大学第二内科

「分子戦略」 奥村 康

「97年全国調査」 原田 実根

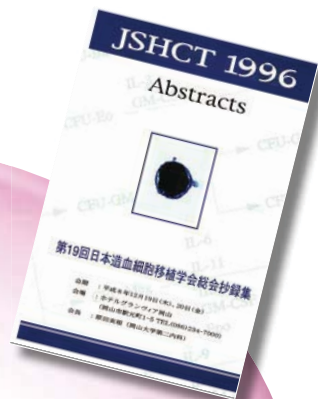
「Gale/Alois Gratwohl

「造血細胞移植における看護の役割」

「造血細胞移植の

「造血細胞移植」

「造血細胞移植」に関する書籍



演題数 330

日本骨髄移植研究会が、日本造血細胞移植学会へと“grade up”した最初の記念すべき学術集会。演題数が初めて300題を超え、参加者数も1,500人を超えた。

本邦で行われた約10,000例の造血細胞移植症例の臨床成績が発表された。

第20回

1997年(H9) 12月18・19日

東京国際フォーラム

池田 康夫 (慶應義塾大学医学部)

テーマ: 21世紀の細胞治療への力の結集  
— 新しい医療体制を目指して



演題数 351

本学会のポスター、プログラム、テレホンカードなどのデザインは、慶應義塾大学病院で骨髄移植を受けた患者さんたちが作成。

「命の架け橋」は、造血細胞移植が此方の生命からもう一方の生命への架け橋であることを意味している。



懇親会後の2次会。池田会長、岡本真一郎先生のお顔が見えます

- 特別講演 「造血システムの発生と分化」 仲野 徹
- 会長報告 「造血細胞移植1997年全国調査」
- 招待講演
  - I Paul J. Martin
  - II Lothar Kanz
  - III Frank J. Hsu
  - IV Juanita Madison
- シンポジウム
  - I 「我が国の医療体制と造血細胞移植医療」
  - II 「移植不成功例・移植後再発例のケア」
  - III 「細胞治療の最前線」

「造血細胞移植」に関する書籍

1995年 『末梢血幹細胞移植—基礎から臨床まで』を出版(南江堂)

1995年 日本で最初の「神奈川脐帯血バンク」設立

1997年 骨髄移植 1,000例到達

1997年 横浜市大病院で脐帯血バンクを介した最初の非血縁者間脐帯血移植実施

1998年 ドナー登録者数 10万人突破

2000年 同種末梢血幹細胞移植の保険診療承認

2003年 骨髄移植 5,000例到達

2004年 ドナー登録者数 20万人突破

1998年 脐帯血移植の保険診療承認

1999年 日本さい帯血バンクネットワーク発足の脐帯血バンク事業開始

2001年 非血縁者間脐帯血移植 500例突破

2003年 非血縁者間脐帯血移植 1,000例突破

第21回

1998年(H10) 12月18・19日

名古屋国際会議場

森島 泰雄 (愛知県がんセンター 血液化学療法部)

テーマ: 共に力を合わせて



演題数 438

- 特別講演
  - A 十字 猛夫
  - B Clare A. Dykewicz
  - C 谷本 光音
  - D Bertrand Coiffier
  - E John R. Wingard
  - F James J. Vrendenburgh
  - G Keith M. Sullivan
  - H JH Frederik Falkenburg
  - I 原 宏
  - J 池原 進
- 教育講演
  - ① 権藤 久司
  - ② 葛島 清隆
  - ③ 東 英一
  - ④ 宮村 耕一
  - ⑤ 平林 紀男
  - ⑥ 高本 滋
  - ⑦ 矢野 邦夫
  - ⑧ 塩原 信太郎
  - ⑨ 秋山 祐一
- シンポジウム
  - I 「GVHDの臨床」
  - II 「自家造血細胞移植の動向と臨床研究の成績」
  - III 「日本における造血細胞移植の現状と将来展望」
- ガイドラインコンセンサスマーケティング  
「白血病における同種骨髄移植の適応」

造血細胞移植療法の多様化に基づいて、細胞療法、脐帯血移植などに関する多数の特別講演、教育講演を設けた点特徴。



特別講演として岸本忠三先生(大阪大学)、招待講演としてIrving L. Weissman先生(スタンフォード大学)が講演されたことが特筆される

第22回

1999年(H11) 12月16・17日

広島国際会議場

土肥 博雄 (広島赤十字・原爆病院)

テーマ: 命の架け橋

演題数 395

- 特別講演
  - ① Sergio A. Giralt
  - ② J. Kurtzberg
  - ③ J. Downing
  - ④ Daniel E. Furst
  - ⑤ 金島 秀人
- 教育講演
  - ① 岡本 真一郎
  - ② 小寺 良尚
  - ③ 平林 紀男
  - ④ 佐治 博夫
  - ⑤ 佐竹 幸子
  - ⑥ 谷 憲三郎
  - ⑦ 楠 洋一郎
- ガイドライン委員会よりの報告 「GVHDガイドライン」
- 緊急報告 「東海村核燃料施設事故後の造血細胞移植」
- シンポジウム
  - I 「骨髄移植関連TMA」
  - II 「同種末梢血幹細胞移植、その基礎と臨床」
  - III 「小児の移植における告知と精神的ケア」
- 公開シンポジウム 「造血細胞バンクの将来」



1990年度のノーベル生理学・医学賞を受賞したトーマス博士の記念講演が企画されたが、健康上の理由から来日が叶わなかったことが残念。

学会発展の軌跡

演題数

1978年 23

1987年 63

1991年 116

1回 2回 3回 4回 5回 6回 7回 8回 9回 10回 11回 12回 13回 14回 15回 16回

日本骨髄移植研究会

第23回

2000年(H12) 12月8・9日

国立京都国際会館

中畑 龍俊 (京都大学大学院医学研究科 発達小児学)

テーマ: 新しい世紀の扉を共にあけよう

演題数 418

- 特別講演 岸本 忠三
- 招待講演
  - ① Viki Anders
  - ② Donna Przepiorka
  - ③ William I. Bensinger
  - ④ Marina Cavazzana-Calvo
  - ⑤ Irving L. Weissman
  - ⑥ Richard Childs
  - ⑦ Martin F. Pera
- 教育講演
  - ① 浅野 茂隆
  - ② 中尾 真二
  - ③ 福田 恵一
  - ④ 珠玖 洋
  - ⑤ 内山 卓
  - ⑥ 松島 綱治
- ガイドライン委員会よりの報告
  - I 「造血細胞移植後早期の感染管理に関するガイドライン」
  - II 「同種末梢血幹細胞移植のための健康人ドナーからの末梢血幹細胞の動員・採取に関するガイドライン」
- シンポジウム
  - I 「造血細胞研究のフロンティア」
  - II 「造血細胞移植後のウイルス感染症」
  - III 「細胞治療の新展開」
  - IV 「脐帯血移植の基礎と臨床」
- 公開シンポジウム  
「あなたはどんな選択をしますか? : 造血細胞移植それぞれの利点と限界」

2000年は、フランスで造血細胞を用いた遺伝子治療の世界初の成功例が報告され、わが国で同種末梢血幹細胞移植の保険適応が認められた年である。



Stanford大学のWeissman教授など、外国招待者の方々

2001年(H13) 12月

北海道厚生年金会館/札幌

今村 雅寛 (北海道大学)

基本コンセプト: 英知の結集

- 特別講演
  - ① 高久 史麿
  - ② 中畑 龍俊
- 会長講演  
「日本における造血細胞移植」
- 招待講演
  - ① Catherine M. Verfaillie
  - ③ Beverly torok-Storb
  - ⑤ Gerard Scié
  - ⑦ Joyce L. Neumann
- 教育講演
  - ① 藤堂 省
  - ② 浅野 茂隆
  - ⑤ 佐治 博夫
  - ⑥ 高橋 恒夫
  - ⑨ 平井 久丸
  - ⑩ 小澤 敬也
- 特別シンポジウム 「Immune Reconstitution」
- シンポジウム
  - I 「移植患者管理の簡略化」
  - II 「同種造血細胞移植と免疫」
  - III 「ALLに対する造血細胞移植」
- ガイドライン委員会よりの報告  
「造血細胞移植の適応ガイドライン」





# 第24回

2001年(H13) 12月20・21日

北海道厚生年金会館/札幌市教育文化会館

今村 雅寛 (北海道大学大学院医学研究科癌制御医学講座 血液内科)

基本コンセプト: 英知の結集

演題数 447

- 特別講演
  - ① 高久 史麿
  - ② 中畑 龍俊
- 会長講演
 「日本における造血細胞移植—2001年全国調査」
- 招待講演
 

① Catherine M. Verfaillie	② Cheryl Kosits
③ Beverly torok-Storb	④ 須田 年生
⑤ Gerard Socié	⑥ Neil L. Bernstein
⑦ Joyce L. Neumann	
- 教育講演
 

① 藤堂 省	② 浅野 茂隆	③ 西村 孝司	④ 佐渡 敏彦
⑤ 佐治 博夫	⑥ 高橋 恒夫	⑦ 葛島 清隆	⑧ 中尾 眞二
⑨ 平井 久丸	⑩ 小澤 敬也		
- 特別シンポジウム 「Immunobiology of Cell Therapy」
- シンポジウム
  - I 「移植患者管理の簡略化について」
  - II 「同種造血幹細胞移植と免疫寛容」
  - III 「ALLに対する造血細胞移植の適応と成績~小児、成人を比較して」
- ガイドライン委員会よりの報告
 「造血幹細胞移植の適応ガイドライン: とくに慢性骨髄性白血病におけるSTI571と移植の適応について」



# 第25回

2002年(H14) 10月24・25日

大阪国際会議場

河 敬世 (大阪府立母子保健総合医療センター・小児内科)

テーマ: バリアを超えて

演題数 410

HLAのバリア、年齢のバリア、人種や国境のバリアを超えること。これらを克服することで、患者さんに最良の医療を提供するという本学会の使命を全うできる。

- 特別講演
  - ① Erwin W. Gelfand
  - ② 正岡 徹
- 招待講演
  - ① 池原 進
  - ② 福原 資郎
- シンポジウム
  - ① 「ミニ移植の適応と問題点」
  - ② 「SCTの新たな適応—自己免疫疾患」
  - ③ 「急性白血病における“化学療法 VS SCT”」
  - ④ 「移植患者・家族のQOL」

- 特別セミナー
  - ① 「SCTとウイルス感染」
  - ② 「免疫抑制剤の適正な使い方」
  - ③ 「血縁者間ミスマッチ移植」
  - ④ 「Skin Careと移植看護」
- 公開セミナー 「がん免疫療法の最前線」
- 日韓交流公開シンポジウム 「命のボランティアでつなぐ日韓交流」

2002年は、サッカーのワールドカップが日韓共同開催された年。これを記念して、日韓交流の骨髄バンク支援公開フォーラムを開催。



ハロウィンの季節にUSJで開催された評議員懇親会後の写真。河会長も笑顔にペインティングされています



評議員懇親会として学会前日に横浜湾でマリン・ルージュをチャーターしてクルーズをしました



# 第27回

2004年(H16) 12月16・17日

ホテルグランヴィア岡山/ママカリフォーラム

谷本 光音 (岡山大学大学院医歯学総合研究科病態制御科学専攻)

テーマ: 新しい医療の確かな証を求めて

演題数 468

- 会長講演 「RISTのNationwide survey 2004」
- シンポジウム
  - ① 「RIST: 適応と限界」
  - ② 「GVHD: 基礎研究から臨床応用への時代」
  - ③ 「移植看護の専門性を高める看護師の教育」
  - ④ 「多様化する臍帯血移植」
- 特別企画
  - ① 「造血細胞移植と女性の不妊」
  - ② 「小児の移植看護」
- 市民公開シンポジウム
  - ① 医療講演 土肥 博雄・大谷 貴子
  - ② 特別講演 「夢を実現するために」 星野 仙一

2004年度から、コメディカルの中でも看護部が正式に発足。



市民公開シンポジウムで、阪神タイガースシニアディレクターの星野仙一さん(現、楽天ゴールデンイーグルス監督)の特別講演がありました

# 第26回

2003年(H15) 12月19・20日

パシフィコ横浜

加藤 俊一 (東海大学医学部基盤診療学系再生医療科学)

テーマ: 共存の医学 協調の医療

演題数 507

- Meet the expert
  - ① Catherine M. Verfaillie
  - ② 福田 昇
- 会長講演 「多様化する造血細胞移植—2003年全国登録より」
- シンポジウム
  - ① 「臍帯血移植」
  - ② 「造血細胞移植チーム医療」
  - ③ 「非血縁者間骨髄移植」
  - ④ 「再生医療」
- 特別企画 「ドナーの安全確保のために」
- 看護セミナー
 「造血細胞移植における看護、その継続的関わりについて考える—欧米と日本の現状から」
- 特別プログラム 市民公開講座
 「移植経験者に学ぶ ドナー経験者に学ぶ」
- 骨髄バンク感謝のつどい
 「移植経験者に学ぶ ドナー経験者に学ぶ」
- ビデオ参加 東 ちづる

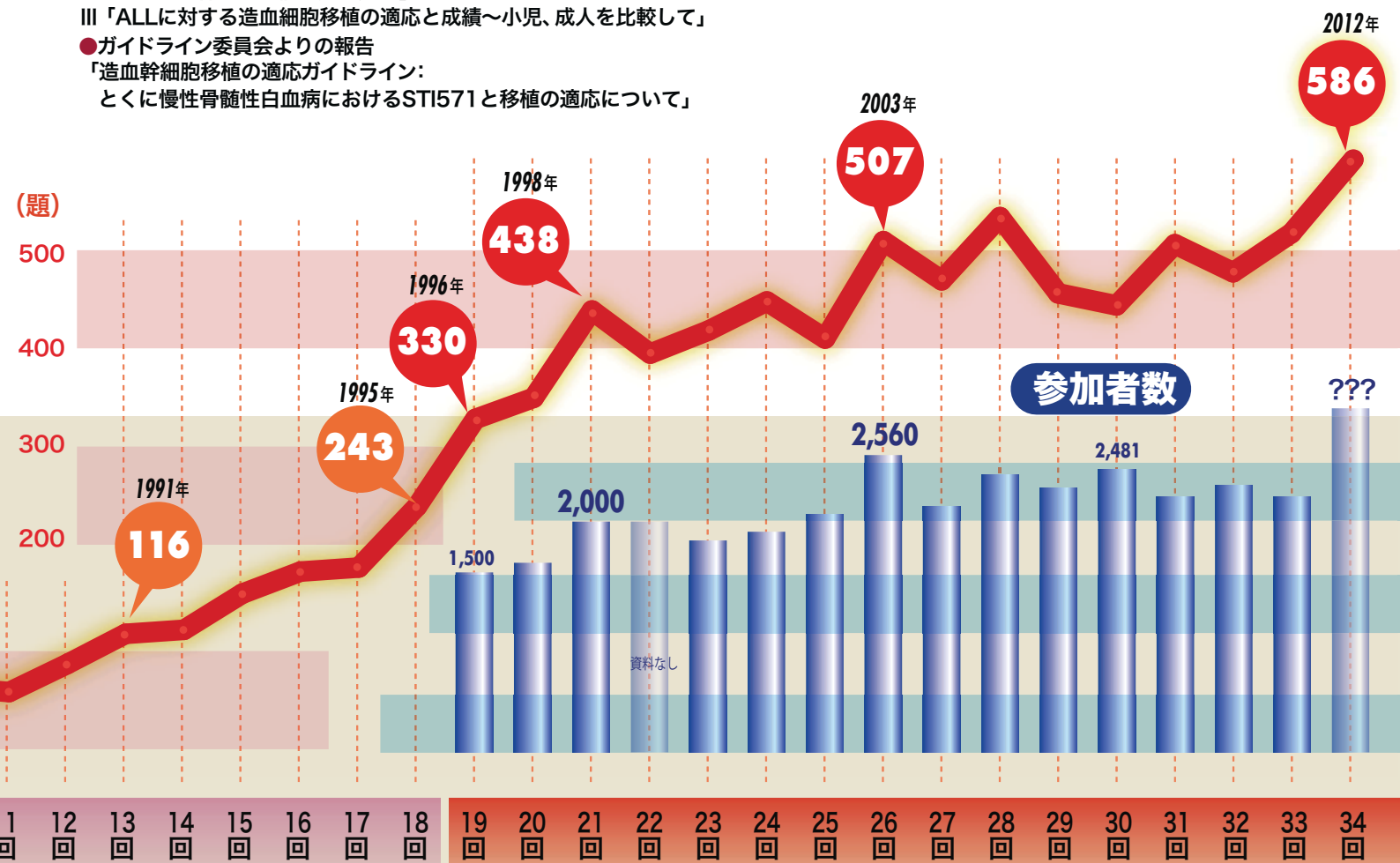


世界的テノール歌手であるホセ・カレーラス氏と会長のtwo shot。カレーラス氏は、ご自身も急性骨髄性白血病で骨髄移植を受けて社会復帰されており、骨髄バンクの支援活動に熱心に取り組まれている。

学会のポスター(抄録集の表紙)の下段には、右にキメラ像、左にオシリス像が隠されている。キメラは、ギリシャ神話に登場する想像上の動物で、頭がライオン、胴体が山羊、尻尾が蛇という怪物。移植などで人為的に造り出される「キメラ」の語源。一方、オシリスは、エジプト神話に登場する再生の神。



ビデオ参加された東ちづるさんと加藤会長







法人  
設立総会

# 第28回

2006年(H18) 2月24・25日  
東京国際フォーラム  
坂巻 壽 (東京都立駒込病院 血液内科)  
テーマ: 質の高い治療をめざして

演題数  
531



- 会長講演 「我が国における造血細胞移植の動向—2005年全国統計より」
- シンポジウム
  - ① 「造血細胞移植後の合併症(1)」
  - ② 「造血細胞移植後の合併症(2)」
  - ③ 「造血細胞移植の適応拡大」
  - ④ 「移植患者の栄養管理」
- 特別企画  
「造血細胞移植登録一元化および新薬承認にあたっての学会集計事業の特別対応」
- 市民公開フォーラム  
「より良い移植医療のために—患者・家族を囲む支援体制の向上」

● 特別講演  
「宇宙からの贈りもの」  
毛利 衛



市民公開講座の特別講演で、宇宙飛行士の毛利衛さんが「宇宙からの贈り物」と題して講演されました



# 第29回

2007年(H19) 2月16・17日  
福岡国際会議場  
岡村 純  
(独立行政法人国立病院機構九州がんセンター 臨床研究部)  
テーマ: 尊い命、つなげる絆。

演題数  
455

- 特別セミナー
  - ① 「慢性GVHDの病態と治療戦略」
  - ② 「抗ウイルス療法としての同種移植療法: ATL」
  - ③ 「幹細胞移植における説明と同意のありかた」
- 会長報告  
「造血細胞移植の現状と動向—2006年全国統計から」
- シンポジウム
  - ① 「GVLとGVHDは分けられるか？」
  - ② 「日本の造血幹細胞移植医療はこのままでよいのか？」
  - ③ 「20年目の移植後合併症を防ぐには？」
  - ④ 「自立へ向けてのソーシャルサポート」
- 市民公開講座 「幹細胞移植と心のつながり」  
第1部 パネルディスカッション  
第2部 「心は無数のミステリー」 夏樹 静子

岡村純会長のご挨拶



特別セミナー3の総合討論のようす

2004年  
非血縁者間  
臍帯血移植  
2,000例  
突破

2008年  
骨髄移植  
10,000例  
到達

2008年  
ドナー登録者数  
30万人  
突破

2008年  
非血縁者間  
臍帯血移植  
5,000例  
突破

2009年  
日本さい帯血  
バンクネット  
ワーク  
設立10周年

2010年  
同種末梢血幹細胞移植のための  
健康人ドナーからの末梢血幹細胞動  
員・採取に関するガイドライン(日本  
造血細胞移植学会)

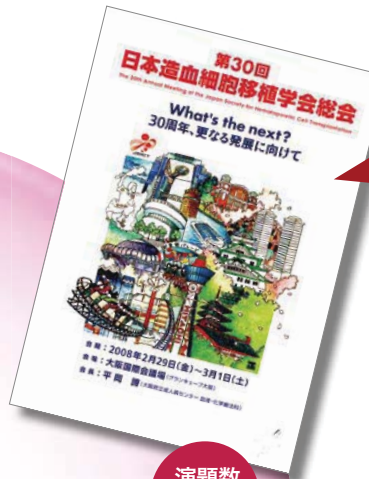
2010年  
非血縁者間  
臍帯血移植  
6,000例  
突破

# 第30回

2008年(H20) 2月29日・3月1日  
大阪国際会議場  
平岡 諦 (大阪府立成人病センター 血液・化学療法科)  
テーマ: What's the next?  
30周年、更なる発展に向けて

演題数  
443

- 特別講演 Mary M. Horowitz
- シンポジウム
  - ① 「TBIの現状と工夫」
  - ② 「急性被曝障害のマネジメント」
  - ③ 「Mesenchymal Stem Cell and Hematopoietic Stem Cell Transplantation」
- 公開討論会 「インフラ整備: 登録一元化と新認定制度」
- 合同シンポジウム
  - ① 「細胞移植・再生医療における品質管理のあり方」
  - ② 「HLAと同種造血幹細胞移植」
- 看護シンポジウム 「造血細胞移植医療現場のジレンマ」
- 看護教育セミナー
  - ① 「造血細胞移植医療の変遷」
  - ② 「造血細胞移植における感染管理」
- アジア造血細胞移植看護カンファレンス  
「日本・韓国・台湾の造血幹細胞移植看護の現状」
- 市民公開フォーラム



本学会が産声をあげた第1回骨髄移植臨床懇話会の23演題の抄録が掲載されたことはユニークな試み。

次世代骨髄移植、インフラ整備が取り上げられた。



本学会は、①女性が多く登場していること、②移植医療とは普段関係が薄い方からも広く意見を求めることをモットーにプログラム編成がなされた。シンポジウム、セミナーの発表者の3分の1は非会員の女性。

特別セミナー3会場に1,540名の参加があり、なかでも「説明と同意」の会場は満員に。このほか、早朝7時半開始のモーニングセミナーには700名の参加があった。

札幌市での開催であり、蝦夷開拓者魂と、さまざまな困難の横たわる移植医療に立ち向かう熱い魂を共有する場としての学会をイメージしてこのテーマが取り上げられた。



よさこいソーラン祭り優勝常連の平岸天神チームによる華麗な演舞

# 第31回

2009年(H21) 2月5・6日  
ロイトン札幌/札幌市教育文化会館/北海道厚生年金会館  
笠井 正晴 (特定医療法人 北楡会 札幌北楡病院)  
テーマ: バイオニアスピリットと移植医療の進歩

演題数  
504

- 会長講演 「最新の移植成績」
- シンポジウム
  - ① 「同種移植時の免疫細胞療法の進歩」
  - ② 「Chronic GVHD-Recent Progress and Controversy」
  - ③ 「臍帯血移植療法の進歩」
  - ④ 「自家造血幹細胞移植のUpdate」
- 合同シンポジウム 「非血縁PBSCTに向けて」
- 特別セミナー
  - ① John E. Levine
  - ② Tom M. Chiller
- 看護シンポジウム  
「患者を支える人(ケアギバー)への支援」
- 看護教育セミナー
  - ① 品川 克至
  - ② 藤澤 めぐみ
- 市民公開講座  
「骨髄バンク移植1万例、さい帯血バンク移植5千例の歩み記念講演会」



コンセンサスマーケティングにて。小島会長、次期会長の中尾先生、中畑先生のお顔が見えます



「さっぽろ雪まつり」の期間中に開催され、参加者は雪まつりを楽しむことができた。



移植医療は「evidence」だけでなく、患者や家族、あるいは医療従事者の「見込みや期待=prospect」で左右されていることから、このテーマが選ばれた。



2010年(H22)  
アクトシティ浜松  
小島 勢二 (名古屋大)  
テーマ: 移植医療の

- Keynote Lecture
- Presidential Symposium  
「Stem Cell Transplantation」
- シンポジウム
  - ① 「医師/看護部門」
  - ② 「KSBMT/JSHC」
  - ③ 「Cell Therapy for」
- プレナリーセッション
- Pro/Con
  - (I) 「幹細胞ソース」
  - (II) 「多発性骨髄腫」
- 看護シンポジウム
- 看護教育セミナー
- 市民公開講座 「よ



本学会が産声をあげた第1回骨髄移植臨床懇話会の23演題の抄録が掲載されたことはユニークな試み。

移植医療は「evidence」だけでなく、患者や家族、あるいは医療従事者の「見込みや期待=prospect」で左右されていることから、このテーマが選ばれた。



# 第32回

2010年(H22) 2月19・20日  
アクトシティ浜松/オークラアクトシティホテル浜松

小島 勢二 (名古屋大学大学院医学系研究科小児科学)

テーマ: 移植医療の選択: Evidence vs Prospect

演題数 476

- Keynote Lecture Neal S. Young
- Presidential Symposium 「Stem Cell Transplantation for Bone Marrow Failure Syndrome」
- シンポジウム
  - ① 「医師/看護部門合同シンポジウム 造血幹細胞移植における感染対策」
  - ② 「KSBMT/JSHCT Joint Symposium」
  - ③ 「Cell Therapy for Intractable Infections and Malignant Diseases」
- プレナリーセッション
- Pro/Con
  - (I) 「幹細胞ソースの選択」
  - (II) 「多発性骨髄腫における同種造血幹細胞移植の適応」
- 看護シンポジウム 「意思決定支援—揺らぐ人々への看護の役割」
- 看護教育セミナー 曾我 賢彦
- 市民公開講座 「より良い移植医療・より良い治療」

新しい試みとして、日本造血細胞移植学会と韓国骨髄移植学会との合同シンポジウムを開催。「移植医療の国際協力」という観点から高く評価される。

特別講演 1



Tsvee Lapidot先生

特別講演 2



Mariusz Z. Ratajczak先生

プログラム・抄録集のスタイルが一新されている。特に、デザイン性、視認性、使い易さ、持ち運びの便利さなどに工夫が凝らされている。

# 第34回

2012年(H24) 2月24・25日  
大阪国際会議場

園田 精昭 (関西医科大学大学院医学研究科 先端医療学専攻修復医療応用系幹細胞生物学)

テーマ: 基礎研究から新しい移植医療の臨床応用へ  
“from the bench to the bed side”

演題数 586 過去最高

- 特別講演1 Tsvee Lapidot (Weizmann Institute of Science, Israel)
- 特別講演2 Mariusz Z. Ratajczak (University of Louisville, USA)
- 会長シンポジウム “Cord blood stem cell transplantation (CBSCT): from the bench to the bed side”

Keynote lecture: Hal E. Broxmeyer (Indiana University School of Medicine, USA)

- Yoshiaki Sonoda (Kansai Medical University)
- Kyung-Sun Kang (Seoul National University, Korea)
- Hiroyasu Ogawa (Hyogo College of Medicine)
- Shuichi Taniguchi (Toranomon Hospital)
- 合同シンポジウム 「造血幹細胞移植の未来」 (日本造血細胞移植学会/日本再生医療学会)

- 特別企画シンポジウム 「放射能被曝がもたらす病態と造血幹細胞移植の役割—過去、現状、今後」
- 看護シンポジウム 「急性GVHDの看護」
- プレナリーセッション

- 教育講演
  - ① 片山 義雄
  - ② 前田 嘉信
  - ③ 植村 靖史
  - ④ 森尾 友宏
  - ⑤ 中尾 真二
  - ⑥ 河本 宏
  - ⑦ 佐々木 豊
  - ⑧ 赤司 浩一
  - ⑨ 井上 雅美
  - ⑩ 辻 浩一郎
  - ⑪ 池亀 和博
- 看護教育セミナー 「造血幹細胞移植後の晩期障害」
- 医学部学生・初期臨床研修医セッション
- 市民公開講座 「造血細胞移植でがんはどこまで治せるか」

世界で初めて脐帯血移植を行った米国のHal E. Broxmeyer先生のkeynote lectureを予定。

会長シンポジウム



Hal E. Broxmeyer先生



コンセンサスマーケティングにて、小島会長、次期会長の中尾先生、中畑先生のお顔が見えます



「さっぼる雪まつり」の期間中に開催され、参加者は雪まつりを楽しむことができた。

# 第31回

2009年(H21) 2月5・6日  
札幌市教育文化会館/北海道厚生年金会館

正晴 (特定医療法人 北楡会 札幌北楡病院)

テーマ: バイオニアスピリットと移植医療の進歩

演題数 504

- 特別講演 「最新の移植成績」
- シンポジウム 「造血幹細胞移植時の免疫細胞療法の進歩」
- 「Chronic GVHD-Recent Progress and Controversy」
- 「造血幹細胞移植の進歩」
- 「自家造血幹細胞移植のUpdate」
- 合同シンポジウム 「非血縁PBSCTに向けて」
- 教育セミナー
  - ① John E. Levine
  - ② Tom M. Chiller
- シンポジウム 「造血幹細胞移植を支える人(ケアギバー)への支援」
- 看護教育セミナー
  - ① 川 克至
  - ② 藤澤 めぐみ
- 市民公開講座 「造血幹細胞移植1万例、さい帯血バンク移植1万例の歩み記念講演会」



# 第33回

2011年(H23) 3月9・10日  
愛媛県民文化会館/愛媛看護研修センター

原 雅道 (愛媛県立中央病院がん治療センター血液腫瘍内科)

テーマ: 将来を見つめて移植の原点を考える

演題数 515

- Presidential Lecture 「急性白血病に対する造血幹細胞移植の成績」
- シンポジウム
  - ① 「急性白血病の移植前処置はいかにあるべきか」
  - ② 「GVHD制御とGVL」
  - ③ 「細胞移植・細胞治療に関する国・学会の指針と基盤整備」 (日本造血細胞移植学会/日本輸血細胞治療学会/日本再生医療学会合同シンポジウム)
  - ④ 「日韓合同シンポジウム」
  - ⑤ 「移植後感染症の克服に向けて」
- 看護シンポジウム 「育てられる移植看護師—看護師の成長体験から」
- 看護特別セミナー 大棟 耕介
- 看護教育セミナー ① 豊嶋 崇徳 ② 田中 秀子
- アジア造血細胞移植看護カンファレンス 森 一恵
- 市民公開講座 「Memorial & Survivorship—あの時、こんな想いがあった。そして、今を生きる」

移植医療の原点に戻り、現状を把握し、将来の更なる発展に向けて考える場とするために、このテーマが選ばれた。

合同シンポジウムでは、近未来の新しい移植医療の可能性についても紹介。

教育講演復活

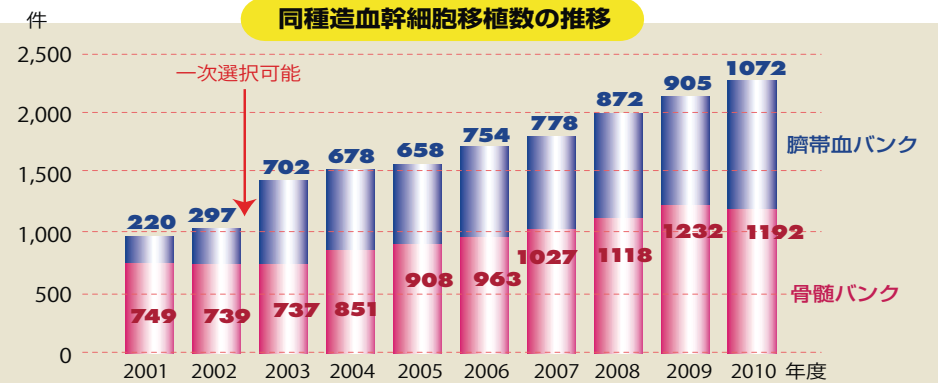
医学部学生・初期臨床研修医セッションを新設。



懇親会にて、小寺学会会長、原雅道会長、原田先生



原雅道会長とスタッフの皆さまの記念写真



2009年 日本さい帯血バンクネットワーク設立10周年

2010年 同種末梢血幹細胞移植のための健康人ドナーからの末梢血幹細胞動員・採取に関するガイドライン(日本造血細胞移植学会)

2010年 非血縁者間脐帯血移植 6,000例突破

2011年 ドナー登録者の累計数 50万人突破 (現在数392,092人) 累積移植患者数 13,397名

2012年1月1日現在 非血縁者間脐帯血移植 8,000例突破 累積移植患者数 8,072名 公開脐帯血数 29,753